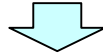




貝森小学校地域懇談会ニュースでは、今後の貝森小学校のあり方についての話し合いの概要を、貝森小学校区内にお住いの皆様にお知らせします。

### 第 3 回地域懇談会では…

- ・ 小学校と地域の様々な関わりが多く、子どもたちは地域に見守られて成長している。
- ・ 仮に子どもたちが国見小へ行ったとしても、貝ヶ森から子どもたちがいなくなるわけではなく、地域と子どもたちの結びつきはなくなるらない。



- ・ 国見小と統合した場合と貝森小が存続した場合の、小学校の教育活動や地域の活動がどう変化していくかを考えながら議論をしていく必要がある。

### 第 4 回貝森小学校地域懇談会

日時：平成 25 年 2 月 16 日(土) 10:00~12:15

場所：貝ヶ森市民センター 2 階 会議室

#### ■意見交換

#### 今後の貝森小のあり方について

第 4 回懇談会では、将来の貝ヶ森地域の子どもたちの教育環境について、小学校の教育活動や地域の活動がこれからどう変化していくかといった観点から、意見交換を行いました。

#### ○当日資料について

今後の貝森小のあり方について、将来の貝ヶ森地域の子どもたちの教育環境を描きながら話し合えるよう、学校生活(子どもの教育環境)や小学校区を前提として行われている活動などの 6 つの項目ごとに「国見小と統合した場合のイメージ」と「貝森小が存続した場合のイメージ」をまとめました。

#### ○主な話し合いの内容

地域委員からは「学区が広がると子どもたちの行動範囲が広がる」といった国見小と統合した場合を想定した意見や「貝ヶ森地域と国見地域は、以前から様々な団体が交流を行ってきた」といった地域の活動についての意見、また、「もし統合した場合、子どもたちが新しい環境に馴染めるよう配慮があると良い」といった統合する場合に配慮が必要な点についての意見や「結論を出すにあたってはその理由を整理し、子どもたちや保護者、地域住民にきちんと伝えていかなければならない」といった様々な意見が出されました。

#### 【第 5 回貝森小学校地域懇談会の開催日程】

日 時：平成 25 年 5 月 11 日(土) 10 時から

場 所：貝ヶ森市民センター 2 階 会議室

テーマ：今後の貝森小のあり方

※貝森小のあり方について引き続き話し合いを行うため、来年度も地域懇談会を継続します。

事務局：仙台市教育委員会事務局

学校規模適正化推進室

電 話：214-8432 F A X:264-4428

Eメール：kyo019031@city.sendai.jp

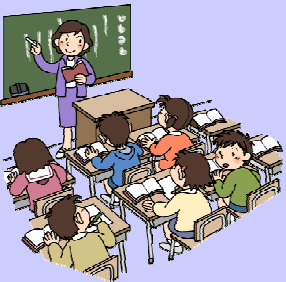
取組み内容はホームページでもご覧いただけます

仙台市教育委員会 一定規模確保

検索

# 貝ヶ森地域の 将来像

貝ヶ森地域から子どもたちがいなくなるわけではなく、貝ヶ森地域と子どもたちとのつながりはこれからも変わらない。

		国見小学校と統合した場合のイメージ		貝森小学校が存続した場合のイメージ	
		変わらないところ	変わる場所	変わらないところ	変わる場所
<b>① 学校生活 (子どもの教育)</b> 	学習する内容	学習指導要領に基づいて教育課程の編成を行っており、学校での学習内容は変わらない。		学習指導要領に基づいて教育課程の編成を行っており、学校での学習内容は変わらない。	
	教育環境		国見小学校で教育活動や学校生活をおくることになるので、関わり合う友だちや大人が多くなる等、教育環境が変わる。	・貝森小学校で教育活動や学校生活をおくることになる。 ・児童数は横ばいで推移する見込。集団での教育活動はしにくい面があるが、個別の指導はしやすい。	
	学区		国見小学校区に貝ヶ森地域が加わる。	貝ヶ森地域が小学校区である。	
	通学先と通学路		国見小学校に通学する。国見小学校までの通学路となる。	貝森小学校に通学する。通学路も変わらない。	
	児童数と学級数		・全校児童数は600名程度である。 ・各学年3～4学級の学級編制となり、学校全体では20学級となる。 ・一学級あたりの人数は増える。	・全校児童数は100名程度である。 ・各学年1学級の学級編制で、学校全体では6学級となる。 ・一学級あたりの人数は大きく変わらない。	
	教職員数と学年・学校運営		・教職員数が増える。現在国見小は41名。 ・学年主任を中心とした複数の教員による学年運営になる。 ・学年主任、教科主任、各教育活動や行事の主任を複数の教員が分担する学校運営になる。	・教職員数は変わらない。現在貝森小は19名。 ・学級経営＝学年経営である。 ・学年主任、教科主任、各教育活動や行事の主任を一人の教員が重複して担当する学校運営である。	
	集団活動と学習形態		・学校全体、学年毎、学級毎、多様なグループ編成や集団での活動がしやすい。 ・一斉指導の他、興味関心に応じた課題別学習など、グループ学習をより多様な形態で展開しやすい。 ・一斉指導の他、複数の教員によるチームティーチング指導や少人数学習が展開しやすい。	・学校全体や学年毎に工夫したグループ編成を行っている。 ・一斉指導を中心に、ペア学習やグループ学習等の学習形態を取り入れている。 ・一斉指導の中での丁寧な個別学習が中心である。	
<b>② 学校運営支援活動</b>	・学校運営への参画（評議員・学校関係者評価委員会） ・教育活動等支援（ゆうゆう体育祭・本の読み聞かせ・森の子交流会） ・防犯巡視ボランティア	学校運営への参画や教育活動等の支援は学校毎に特色はあるが、地域団体と学校の関わりは変わらない。	・国見小学校（国見小学校区）との関わりで活動することになる。 ・学区が広がることで、より多くの人が学校に関わることになる。		
<b>③ 小学校区を前提として行われている活動</b>	・PTA ・体育振興会 ・地区協議会 ・子ども会	・単位子ども会の活動は変わらない。 ・スポーツ少年団、おやじの会の活動は変わらない。	小学校区単位で活動している団体（PTA・体育振興会・地区協議会等）は組織を1つに統合することになる。	貝森小学校（貝森小学校区）との関わりでの活動が継続する。	
	・スポーツ少年団 ・おやじの会				
<b>④ 小学校区を超えて行われている活動（一中校区を前提とした活動）</b>	・市民センターの行事 ・第一中校区健全育成会（善導協） ・国見地域市民委員会	中学校区は同一なので、行事や活動に変更はない。	国見小学校（国見小学校区）との関わりで活動することになる。		
<b>⑤ 学校・子どもの地域への活動と働きかけ</b>	・公園の清掃活動 ・町内会や老人会への参加（夏祭り・敬老会） ・地区協議会や子ども会の活動	貝ヶ森地域内での地域団体と子どもたちとの活動や行事は変わらない。	・国見小学校（国見小学校区）との関わりで活動する。 ・学区が広がることで、学校や子どもたちの活動範囲が広がる。	・貝森小学校（貝森小学校区）との関わりで活動する。 ・学校や子どもたちへの地域からの働きかけや、地域での活動は変わらない。	
<b>⑥ 学校施設を利用した活動</b>	・スポーツ開放（体育振興会・地域スポーツクラブ・スポーツ少年団） ・社会学級の活動 ・土曜日図書室開放 ・指定避難所（防災の拠点）	・小学校の跡施設利用については、学校施設が貴重な公有財産であるとともに、学校という地域の皆様に親しまれてきた施設であることに鑑み、その活用方策の検討にあたっては、地域のニーズや防災拠点としての位置付け、地域コミュニティの役割等について地域の皆様と十分に話し合うとともに、関係部局と協議を行いながら、より良い活用方策を検討していく。 ・避難所のあり方については、新年度から担当局となる市民局と各区役所が中心となり、地域の皆様と順次協議に入る予定となっている。		・貝森小学校での活動は継続する。 ・貝森小学校が指定避難所として継続する。	



## ①学校生活(子どもの教育)

### 【学区】

- 貝森小では、放課後学区外に出ないことになっている。統合すると学区が広がり、今までより遠くに遊びに行くということが出てくる。また、国見の子どもたちが貝ヶ森に来ることもあるだろう。

### 【通学先と通学路】

- 通学時間帯の福祉大駅前の交通量の多さや、福祉大生の通学による混雑に対して、例えばPTAの見守りの追加など何らかの安全対策を考えないといけなくなると思う。

### 【児童数と学級数】

- 統合した場合、1学級30名程度だと良いが、40名近くになると学級運営などが厳しいと思う。  
⇒ 24年5月時点の両小合わせた児童数は、1学級あたり4年生は40名弱、それ以外の学年は30名前後になります。(教育委員会)  
⇒ 1学級30名前後で、40名以下であれば、良い教育環境ではないかと思う。

### 【教職員数と学年・学校運営】

- 貝森小では、分からない問題があつたり、休んで授業を受けられなかったりしたとき、業間休みや放課後に個別に勉強を見てくれるという良さがあるが、国見小では行われていないようだ、という話を聞く。学校や担任の先生によって対応が変わるということがあるのだろうか。  
⇒ 学校の規模に関わらず、学校や担任の先生の方によるものだと思います。仮に統合となった場合、貝森小で行われている個別対応などの良いところを、引き継いでいくようしっかりと話し合っていきます。(教育委員会)
- 資料の数値を単純計算すると、国見小は先生1人あたりの子どもの数が貝森小の2倍になるが、先生の負担が増えたりはしないだろうか。  
⇒ 子どもの数が増えると、教員の加配があるため、音楽や体育などの教科専任や少人数指導を担当する先生が増え、担任と協力して授業を行うことができるようになります。(教育委員会)
- もし統合した場合、子どもたちが新しい環境に馴染めるように、事前の配慮などが行われると良いと思う。  
⇒ 松陵小と松陵西小の統合により25年4月に開校する泉松陵小では、前年度(24年度)に、両小児童の事前交流を27回行いました。統合後には、スクールカウンセラーとさわやか相談員を配置して子どもの相談に乗ることや、元の学校(両小)の教職員を新校に配置するなどの配慮を行っています。(教育委員会)  
⇒ 交流に時間をとられて、勉強が遅れたりしないよう配慮してもらえると、より安心できると思う。  
⇒ 松陵小と松陵西小の事前交流では、行事や校外学習での交流を行い、通常の授業に影響ないようにしました。(教育委員会)

### 【集団活動と学習形態】

- 貝森小は1学年1学級で、クラス替えができないなどの課題もあるが、それをカバーする様々な縦割り活動を行うことで、子どもたちは世代を超えた視野を広げられるという側面がある。

## ②学校運営支援活動(ゆうゆう体育祭など)

- 規模が小さいので、体育祭には町内会が一体となって関わり、学校と町内会の融合に役立っている。

## ③小学校区を前提として行われている活動(PTA・学区体振・子ども会など)

- 国見地域とは、以前から体育振興会だけではなく、交通安全協会や防犯関係、善導協等いろいろな交流をしてきているので、活動するための下地になるところはあまり心配ないと思う。

## ○その他

- 最終的な結論は、アンケートを採ってそれを参考にして決めてもいいのではないかな。
- 我々自身が結論を出すにあたっては、「こういうわけで決めた」という理由を整理し、子どもたちや保護者、地域住民にきちんと分かるように伝えていかなければならないと思う。